

国際コンベンション Y-SHIP 2023 の実施結果について

1 開催概要

(1) 日時: 令和5年11月13日(月)～15日(水)

会場: パシフィコ横浜ノース、Y-PORT センター公民連携オフィス GALERIO (ガレリオ)

※13日は海外都市関係者による視察及びフランシス・フクヤマ スタンフォード大学教授の特別講演を実施

(2) テーマ:

- ・GX (Green Transformation) × Innovation (オープンイノベーションによるビジネス機会の創出)
- ・アジア・スマートシティ会議 (ゼロカーボンでつながるアジアの都市)
- ・Open Port City (住みやすく働きやすい、世界に開かれたハブ)
- ・Y-SHIP Youth (次世代を担う若者の育成)

(3) 参加者数: 現地参加 約 2,000 名 / オンライン視聴者 約 700 名 (いずれも延べ人数)

(4) 参加国: 45 개국・地域

※今後本市米州事務所より、海外主要メディアを通じて主に海外に向けアーカイブ動画を配信し、さらなる視聴者獲得を図る予定

2 主な成果

(1) 脱炭素・GX 分野

- ・アジア・スマートシティ会議を併催するという枠組みで立ち上げ、政府、国際機関、大使館といった公的機関から国内外のスタートアップ、エコシステムビルダーまで、国内外から招いた多様かつ著名なスピーカーによる論議を世界に発信できた。
- ・世界銀行、アジア開発銀行及び横浜市が連携し 44 の海外都市・機関を招へいし、盛り上がりを生んだ。会議自体も好評であり、来年度の Y-SHIP につきさらなる支援の申し出があった。
- ・山中市長が、バンコク都知事と共同で、脱炭素化に向けたアジア都市との力強いパートナーシップを宣言し、海外都市・機関の賛同を得た。
 - ・山中市長がアジアの首長・大使・国際機関関係者等にトップセールスを行うとともに、特に「GREEN×EXPO 2027」に重点をおき、Y-SHIP に参加した各大使館からの来訪者に個別にアプローチし、今後の海外との連携への足掛かりを作ることができた。

(2) TICAD9 開催に向けた PR

- ・成長著しいアフリカの社会情勢、経済情勢の変化、国際情勢の影響などを発信し、アフリカの開発を議論する場である TICAD9 を横浜で開催する機運を醸成できた。

(3) ビジネス創出

- ・海外から6社のモビリティスタートアップを招へいし、29件の市内事業者等とのビジネスマッチングを実施し、国内企業とのイノベーション創出に向けた継続的なビジネス協議につなげた。
- ・各国大使館、国内外企業・団体、市内企業 (YUSA 会員企業、市内 GX 等関連企業、スタートアップ企業) など、28 社の展示ブース等を通じ、新たなビジネスが生まれる場を創出した。特に市内のスタートアップ企業を国内外からの参加者にアピールする貴重な機会となった。
- ・レセプション、名刺交換等を通じて、通常交流する機会が少ない団体・企業が知り合い、新たなビジネス創出に向けた出会いの場となった。

(4) 次世代育成

・みなとみらい本町小学校の生徒による SDGs をテーマとした校歌の発表や、桜丘高校、横浜国際高校の生徒の英語による発表の機会を設け、さらには世界を目指す若者応援事業の経験者も会議に参加し、次世代のグローバルマインドを醸成する場とした。横浜市立大学や明治学院大学等の市内学生を中心とした若者がグローバルビジネスに触れる機会を創出した。

3 主な登壇者

セルギー・コルスンスキー 駐日ウクライナ特命全権大使、シビ・ジョージ 駐日インド特命全権大使、レイモンド・F・グリーン 駐日米国首席公使、在京英国大使館、在京シンガポール大使館、在京タイ大使館、バニース・ファン・ブロンクホルスト 世界銀行グローバルディレクター、川脇文子 アジア開発銀行市場開発官民連携部長、上田 奈生子 OECD 東京センター所長、松澤裕 環境省地球環境審議官、清水信介 外務省 TICAD 担当大使、チャットチャート・シッティパン タイ国バンコク都知事、フランシス・フクヤマ スタンフォード大学教授、宮坂力 桐蔭横浜大学教授、アレックス・ラミレス 横浜グローバル・パートナーシップ大使、サンジェイ・サルマ アジア・スクールオブ・ビジネス CEO、田中秀明 ENEOS 株式会社水素事業推進部長

【参考】コンベンションの様子



駐日米国公使による基調講演



GX をテーマとしたパネルディスカッション



アジア・スマートシティ会議での
アジアの脱炭素化に向けた共同宣言の集合写真



展示ブース会場で行われたピッチイベントの参加者